

# 令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【上小小学校】

## 学力向上 アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する 資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語「知識・技能」の情報の扱い方に関する事項について、情報と情報の関連付けや語句と語句の関係の表し方を理解し、活用する力を高め、情報活用能力の向上を目指す。また「A話すこと・聞くこと」の項目においては、正答率が低い問題があったので、「話す力」「聞く力」を確実に身に付けさせる。</li> <li>・算数「知識・理解」においては、正確に計算問題を解く力を定着させる。また「思考・判断・表現」においては、考えたことを言葉や文章で表現する能力を高める。</li> </ul>
↓	
実施する学力向上策 【時期・頻度】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語「思考・判断・表現」の能力向上のために、授業において物語や説明文に触れる機会を増やし、内容を読み取り記述して表現する力を高めるようにしていく。また授業中に要点をメモする機会をつくる。言葉で表現する場面をつくるなどして、「話す力」「聞く力」を確実に身に付けさせる。</li> <li>・年間30回の朝自習「基礎学習の時間」を活用し、通年で国語の書きと計算の問題に取り組み、基礎的な書く力・計算する力を高める。また全校で週に数回の自主学習に取り組み、自分で課題を決めて学習を進め、表現する力を高める。</li> <li>・日々、タブレットやICT機器を有効活用し、自分の意見を記録として残していくだけでなく、共同編集アプリなどを活用し、意見の共有なども積極的に行っていく。</li> </ul>

⑤	年度末評価
学力向上策の 実施状況	評価(※)
↓	
今年度の成果と 次年度の課題	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	

- ① 学校全体での取組
- ② 単元テスト・定期テスト等の分析・活用
- ③ 中間評価を経た取組
- ④ 調査結果を活用した授業

③	中間評価
学力向上策の 実施状況	評価(※)
↓	
学力向上策の 見直し	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)